



甲州

夕法集

^ 5
6497



八五
6497



010186021881

てよふ思ひのよき道りゆのさへあふよりのちと
同業はほほの園地よき道骨を城を免
まゝしー出さるはあふよりのちと
とるはほほしーおぼのちのちのち
むらぬるはあふよりのちと
おぼのちのちのちのちのち
ゆくとゆくとあふよりのちと

弘化兩年秋

水休



百韻俳諧と連歌

揮筆は極

夕露やい川を流るのちと	塞馬
ゆくとぬ新もく平言まはれ乃月	石采
秋をくちまのちと	水竹
五飛脚のちと	桐古
汐乃身さうらハ際あふ川と	蓬宇
何のちと	貞山



かきりて守竿のむらさきとちま

且高

又さう痛し みるまきさるる

流芝

丸のうら用事ありらまきさるる

一武

まとりさるる みるまきさるる

茶園

福の陸の地まきわら守付りり

青可

おのひまきりりさるる みるまきさるる

波文

ほららりり みるまきさるる

惟一

鏡のまきりり みるまきさるる

氷馬

おけりり みるまきさるる

信鼻

嵐乃よりまきさるる

杜水

糸にわらり みるまきさるる

蕪雲

まきさるる みるまきさるる

樟木

あ掛乃向ふ みるまきさるる

喜雀

むらりり みるまきさるる

茂東

わきりり みるまきさるる

草丈

糸代けりり みるまきさるる

守山

産のありしと云はる屏風

東石

ほつりしと云はる一葉

飛雪

る具しけわつり持てるやと云は

一葉

留す長もつゆら夏籠乃うら

昌風

ぬき代の何よの長と云はる山

圓産

啼とまきしゆらあつり縁法と

蔭光

剃刀の又もつけしゆら一葉研

竹甫

日南く大れをまはしゆら

樹石

二

墨俣の末と云はるしと云はる

翠錦

おろり色めやまきと云はる

菰一

と云はるハ禁つけしゆら

藍川

者引出と云はる者あふ

星水

次酒のまきしゆら仕舞

臺仙

と云はるのろより

管曉

むれきよとんほいとれと

汝萱

果と新橋と告と科

為中

張るるきしむ隣子れうと寄寄
 竹阜
 苦き風くまきし甲多百の寄
 甫汲
 緒上ゆきとひそく口きしと
 左夢
 納涼よきもか居れとひし
 牧夫
 木鬼紙そのけ家鴨の鉦うあや
 露石
 米よ里路の草加よりちよ
 六輝
 けしの月昼きりうら日如し
 葉所
 元とくしとく風沙魚よりあり
 底知

町中の蔭いりり子砂あつり
 蒼尾
 あ〜〜め前ふ移うちておく
 猪水
 引明きふう寄るむはり星
 三岳
 葉不揚うきよのそらふ都あり
 梅実
 色〜〜かろけし〜〜むらふうらとと
 吹角
 長〜〜れらとまの〜〜れぬ浪人
 玉養
 井戸を〜〜よと深の掬ひをかわりて
 畝曲
 ともをわ〜〜の法と〜〜し
 箱居

かつこある魚尾丁きあつたつり
長生甲斐く 西末 以てく
うとむすれ数ふきく鳴 然れ月
末社の縁も押 ぶさく 昔
面葉の落のそあつこ元れあり
あつこい小える 系お 知 已
おれ きのちとも 雀をぬ ちのうち
よ知と 雲く 戸 植をく ち ち

蕨泉
文来
二青
孤城
久之
風粟
完伍
竹芳

^才お持の承き百あ 一 一
ふそりしと 後 び ち
山の家のまゆり連 ち ち
ひく 押 織 乃 衣 柳 走 ち
強 竹の子 伴 好 三 庵
小 路 一 ち ち 海 生 夢 乃 此 夢
庭 ち 一 ち 子 部 走 乃 八 ち ち ち
ほ 連 ち け ち 一 乃 ち ち 巖 角

林章
春圃
柳鳩
黄龍
茄月
枝墨
岡南
秩平

ち〜ほ〜 あ〜あ 此牛の帰る路
 ほ〜ほ〜 雪のつら ち〜ち〜
 藤末ふも又松〜 きのねのもの
 人〜ち〜る 厄乃き〜 ち〜
 是夏の草のうら〜 寸丸此秋
 木〜ち〜 生る 帰の雲ち〜
 ち〜 別ぬ 城の 藤の ち〜
 ち〜 忠〜 ち〜 ち〜 ち〜
 古梁 二海 其妻 結梅 朱芳 靴草

藤のき〜 ち〜 ち〜 古梁
 黒河ち〜 ち〜 ち〜 二海
 翅板のうら〜 ち〜 ち〜 其妻
 ち〜 ち〜 ち〜 結梅
 ち〜 ち〜 ち〜 朱芳
 ち〜 ち〜 ち〜 靴草

連流九十三人
代巻上人

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

也
一

いづれかの句におめしあけよの
甲しきあれハ初也を思ふ
なちちさうつふあて程絶し 菴の林
けしあつちとすまこと 折る渡う事
川もも洞も 節もきや 庵のあ紀
あまひ中し 心もすくも 枯海し
あましうし 枯のあつちも けりり今色
人あれハよもものそまひし けりり今色

水竹
波文
菴園
可研
荒袋
携缶

口

此の月のけしきりりし秋の夜
かきそとハおもほぬ枝の入りつゝ
菊井 文郁

かきそとハおもほぬ枝の入りつゝ
かきそとハおもほぬ枝の入りつゝ
琴酒

月見もももおもほぬ枝の入りつゝ
月見もももおもほぬ枝の入りつゝ
惟一

さししししししししししししししししし
さししししししししししししししししし
三岳

うはむけハおもほぬ枝の入りつゝ
うはむけハおもほぬ枝の入りつゝ
一武

本さししししししししししししししししし
本さししししししししししししししししし
四彦

あきつる海とさししししししししししし
あきつる海とさししししししししししし
来鶴

おもひおもひおもひおもひおもひおもひ
おもひおもひおもひおもひおもひおもひ
苟美

西風の月とさしししししししししししし
西風の月とさしししししししししししし
花光

とさししししししししししししししししし
とさししししししししししししししししし
青白

おもひおもひおもひおもひおもひおもひ
おもひおもひおもひおもひおもひおもひ
澄島

うはむけハおもほぬ枝の入りつゝ
うはむけハおもほぬ枝の入りつゝ
茶園

あきつる海とさしししししししししししし
あきつる海とさしししししししししししし
大野

さしししししししししししししししししし
さしししししししししししししししししし
星水

月夜の音
よのけの音とあまの音
日影をくおらにほそくする月
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音

葉取
古蹟
里路
二重
土巻
林亭
梅史
青池

九

うくるよなまとり〜月夜
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音
あまの音とあまの音とあまの音

文哉
岡南
燕尾
翠裾
柳喜
流芝
涼花
菫仙

川水も西へききこえてし船の舟
 入月や露も涙をわきりけり
 月影も河にさきまわやその原
 そのも本もさうとく乾なり月の徳
 入あまふ乃とるひりちや林のこ
 聆よゆり光あやうして月り西
 迎はきく二夜の月もおもひまわ
 朱芳
 其美
 藍川
 一懸
 吹角
 昌風
 暮月

舟のつちやさうとく乾なり月の徳
 そのも本もさうとく乾なり月の徳
 入あまふ乃とるひりちや林のこ
 聆よゆり光あやうして月り西
 迎はきく二夜の月もおもひまわ
 朱芳
 其美
 藍川
 一懸
 吹角
 昌風
 暮月

溯月
 青可
 茂東
 南輝
 其篤
 輪取
 市井
 仙菓

行末
 李雪
 柁岡
 柳月
 李崔
 露苔
 雲斗
 杏雨

可松
 朱露
 みん女
 久之
 桐古
 柏羽
 枝墨

閑伽柵より流る夕日や秋の毛
自蓬

らものうきと見し木槿志保を
栝芳

志保のうきと見し木槿志保を
柿卷

けつろきや眼より流る夕日
五階

秋の隙そのよ入白き
一栖

まらりたるなまねまらりたる
秋橋

秋の隙そのよ入白き
柳塙

まらりたるなまねまらりたる
秋橋

生

まらりたるなまねまらりたる
尺南

おのつよふ秋の隙
只樂

風より流る夕日や秋の毛
年々

無しの十寸極の芒うき
春雀

汝の心くくくくくくく
如翠

植まやまらりたる風
守山

降る雨志保のうき
清鼻

芒ふくうもさく言一 波の阿と 柯東

野も山も芒うらまえて夕けり 其城

西あつりさひやまきうのさうとぞと 初石

啼いさうさう一うらまひきりし守 杜水

さましくよ虫さあさうぬり 鷹の音 直喜

根にうらしてさうさうさうさうさうさう 飛雪

お風やあ一うらむのさう 月啼

たれさうさうさうさうさうさうさう 里歌

志つたさうさうさうさうさうさう 百彦

野も山も芒うらまえて夕けり 竹苗

あさむれは場よ啼一 疾る雲さうさう 西八

義実さうさうさうさうさうさうさう 索石

のさうさうさうさうさうさうさう 梅市

さうさうさうさうさうさうさうさう 鳥谷

手紙あつゝ先多白けり暮乃をぬ
それとささく道もわづら寸その心
ありつゝも抄の雪やうそのまふ
何えとささくあつゝのてや秋の叶
仙臺

秋の葉や嵐の根もあつゝぬ起つゝら
朝の雪や吹のくさねぬ片らより
山びらの越て秋のささく風
蓬宇
金芳
斗南

古

秋の葉や嵐の根もあつゝぬ起つゝら
朝の雪や吹のくさねぬ片らより
山びらの越て秋のささく風
蓬宇
金芳
斗南
其意
吾牛
如昇
答露
文書
藤雪
秋曲

おきん出のつまぬ梅もや林の自
新よりまきよやうらよるれ雨
かきしあまのうらまや林の自
抱こしほもももやあはれの角
茂翠

露時雨けしき身そくあひひめ
けふふり年あぢやほゆこれ
西本の木に星ハうらまて平路時雨
雨暮

鶯もこやみこれまゆやあし
余は事しにあひぬきやほゆ志を託
油大れまきゆるさるるや平路の時自
そこせよふそ路も志もさるふきんあ
古の路や板道わうぬ平路しをき
亡籠ろしうらなみたや露の時雨
輪居

中 碧山
碧山

けしとらふ今日方うしとや木の風
木の葉やあましく残る波の臨
怒しき風を吹たれけり木の葉を
阿ふ多に木の風をあるおまふは
おまふよおまふをわけを木の風
たしとくしとまのうしとあまの風
限あまう海あまうれく木の風

喜坡
桃雲
清如
子悟
士兼
布衣
素樂

共

今一度も風をきよあまのそら
水も流るうしと清ぬ木の葉
日のくくおまふや木の葉
おまふよままうはまや木の葉
門とくまもらうしと秋の葉
おまふれおまふのまもや阿まの霜

樗牛
玉菘
粟谷
南菊
芋丈
お樂

閑伽の水おぼえそ枯ハ澄りけり

為中

ききわらきしてききけり 枯のふ

枯水

まの影のきして影新し 枯の水

高峯

枯原ハ漱のありけり 枯の影

赤考

星影やあられあり 閑伽のふ

落氷

橋ふみをお歩ハ影きき 枯のふ

雁月

片付け 枯のふとの影ききむせ

壺仙

あまきりれふよけりけり 影ききり

榮雄

風ききり 影の体ハ影ききり

巴守

俵にちりけり 影のふききり

楢密

そのふき風も耳ハ影ききり

丁々

影のふきあきけり 影のふききり

樗舟

影のふきあきけり 影のふききり

完伍

ゆききのふききり 影のふききり

李明

影のふきあきけり 影のふききり

敏丈

原さしてささるるあつきのねの程
おもひ中一は中一はねるねを
其邊 汝邊

中てね痛む方と志むやはさなり
只さくも方中一む林を鐘のを
善雪 露石
月むれ影を方中一は中一は
底知 嗽石
志今くとね風ふと志るねを

大

驚一誰も一なりやあまのそ
七口くしらくくくくくくくく
左邊 岱沙
経道くたくむ袴や阿きのき
襟南
風をれ方と志るけり木の影
風紫
むとけのあやねる木の邊
黄道
落を志るくくくくくくくく
不角
道連 志るあまの所 木の影
雪唇
家くくくくくくくくくくくく
嵐出

月乃く成りてはあよ鳴るる
浦筆

けしきハ品一節のたれ節の
洗竹

風を——もぬふおもふ葉の秋
鶴法

かきりあるささうきぬのわづれ
主布

けしきの照あてはさうてまらぬのふ
松子

けしきの葉をこはすぬ松の
椿白

けしきの葉のほろけふ向るを
耕字

けしきの葉をこはすぬ松の
若尾

けしきの葉をこはすぬ松の
鶴水

けしきの葉をこはすぬ松の
菖月

けしきの葉をこはすぬ松の
松風

けしきの葉をこはすぬ松の
寛備

けしきの葉をこはすぬ松の
格雪

葉の香もくらくくもみるゆわい
たもせは色の海しよき動の
武栗 茹泉

蓮の葉のぬも中しきや池の面
花葉やさひらもあふ乾乃風
色高 蓮重
念部の葉のまきはあれしんが
多ねのまこはれらあり梅もま
南汲 塚本

花天やおもひもふくも花柳一葉
一吹よまうぬくちりし柳の家
魚舌
まらてさく魚しよ新色ちる柳
其蘭
葉あしきもさうさく花る柳の都
色林

持言のつとまもくもきぬてふ
うらまも何よのあつうしお
竹亭
秋の給もまふ人まなりけり
文来

抱布

孤城

竹山

風茹

葉中

百川

秋哉

如流

管曉

六博

規外

竹友

山壺
石采

甚道

樹石

柳涯

畔舍

茶石

蓮華初芽未とハ初三日をいふ

蓮華初芽未とハ初三日をいふ

両后

早稲年の風更清く

早稲年の風更清く

風外

とむらひのささげふもよほゆの歌
必露ハひききしきふらふらるる
そのほゆさゆれきしきふらるる
猿のうらふおぢきぬほらや露の音
みよあやのささげあり軒の庵
あを明日の枝きくさききく家の秋
そのささげきみ風うほむらや月北露
梧糸ふそくきしきしきや露あり

松隣
呂國
砺山
波田
杜鰲
荏史
梅曦
東居

昔

よとらんしきささげふもよほゆの歌
しきささげや身らるるの枝あきしき
叶もはたささげふもよほゆの歌
ささげあやのささげあり軒の庵
あさささげささげふもよほゆの歌
そのよほゆる月あささげの三隣りたり
ほゆささげあきしきふらるるの川
ぬらつちきささげふもよほゆの歌

雅琴
波青
貳妹
風氏
松湖
南晋
友山
柳牛

〇

詠よや西路のつらき道さうみ

大夏

予将居の此まゝやむは侍りけり
うらぬまゝのつらき道さうみ
ちのつらき道さうみ
まゝのつらき道さうみ
詠社の案綴のめ
念しあつとさうみ
子け林さうみ
おのつらき道さうみ
破上小懸まき香も様とておのつらき道

詠よやしつらき道のつらき道

有花

五

その光をさうみつらき道のつらき道
つらき道のつらき道
とまゝしつらき道のつらき道
はつらき道のつらき道
そのつらき道のつらき道
よふのつらき道のつらき道
月さうみやあつとさうみ
詠よや今をけりけり

東雅
楮尾
素屋
素屋
芝石
東亨
楚山
若岡

のまやうきしけきぬり月の雲
 入うまらうそまきほ雨のそ
 月ほくきしきやわらぬ道
 山子入月おきまや風ちり
 白柳やまやのほまぬ月のそ
 地のちるほくぬれけり霧のそぬ
 花らりてさうりさくあまやゆり

繁茂
 松朗
 至輕
 阿籟
 文車
 月栖
 希井

花らりありとわら部 花も散らたり
 きしむ道一をふよゆあす花すま
 極きみをも風ちりうあまきつれ
 うけらまきくふるよ濡る屋もつか
 ふらうやうきもの同くまきくま部
 多のまきしきまきれたわ風のほく
 陣のあく啼そぬ文のうへ

一匙
 白駒
 蕉庵
 うきる
 遠南
 梅通
 其山

鳴くはまよふはぬ月の影

清足

月乃一途く一宵の啼きなり

雪菜

寂伽初やうきもそぬきりけ

猶谷

啼やんくそそよあふくは

子明

雪ふぬおとれたぬきりけ

志桂

けふよ静もくめす秋のよ

黄山

暮れゆくは深しや芙蓉のむの気

我竟

廿七

汲音一閑伽よりけらる芙蓉の気

南岳

石均し芙蓉やむのらりあ

宗古

そよと静もそそ松風の響り

淡菟

あふりー江山よりすや秋の気

佳峰

居るうきや叶あはれ風の

曳尾

松風やおもひそそ静の響

けい

むやうそそ静の響

二柏

松のや 風をたふせんと 松の音

映門

初座の音もさういふあまの音、那

為山

入あまの音もさういふあまの音、那

耳墻

是あまの音もさういふあまの音、那

鼎左

りあまの音もさういふあまの音、那

楚江

松のや、叫もつてあまの音、那

笑價

共

うきあけの音もさういふあまの音、那

垣栗

きつての音もさういふあまの音、那

眠岳

さきつての音もさういふあまの音、那

祖郷

きつての音もさういふあまの音、那

岐嶽

松のや、使の音もさういふあまの音、那

惠雨

奈河の音もさういふあまの音、那

舞巴

ちつての音もさういふあまの音、那

霧行

むまやまのしほにわたりて
あまのこゝろを
あまのこゝろを
あまのこゝろを

語多し海に抱きし
抱きし

余はよもや風をよもや
荀家

あかきし降出のまや
吾妻

とらねのまよひを
素明

きりぎりすもあまのこゝろ
加味

眼をよもや
流芳

ちりちりやわたりて
秋波

月のなまよひを
三郎

秋のよもや
信條

金まよひを
外松

みづゝみづゝ人なきのわらふるを

春餘

おしまよまよひの梅のわづれを

道雄

おのゝやみづゝと引板の音

知系

藤のしづみのおもひを柳の風

雨梨

秋の日は湯屋のむすむすを

呉城

燈のともやうつと秋のゆづり

岡翔

三

春あらしのしづみをわづれを

藤

ちのちのちのちのちのちのち

俚仙

秋のそれ照るもあやのちのち

相一

風よめくしづみをわづれを

石外

あまのしづみをわづれを

小島

はるよおのちのちのちのち

費古

あまのしづみをわづれを

石壽

あまのしづみをわづれを

月庭

秋の夕暮の光を照らす木垣の
 風兮
 静山
 玉波
 李山
 其友
 一扇

秋の夕暮の光を照らす木垣の
 風兮
 静山
 玉波
 李山
 其友
 一扇

秋の夕暮の光を照らす木垣の
 風兮
 静山
 玉波
 李山
 其友
 一扇

ひらけし ありきりし 雪の鳥
見か 無く

まゝ居士とての世をわたり
やそれし 子さり八品懐外こと
のまを能く 光陰を費り
けりよとてむ 是れは身を結ぶ
とてなす

とてなす 月夜あり 梅空



富田蔵書



Faint vertical handwritten text on the right page.

額看板正高欄板刻御印別類
 石印刻御摺物彩色摺御好次第
御書物板木彫刻所
 尾州名古屋京町
 玉鱗堂 中村屋治助

